大日本耳鼻咽喉科會會報

第四十六卷 第十號

(昭和十五年十月)

原 著

島田共生病院最近二ケ年間ニ於ケル 耳鼻咽喉科的疾患ノ統計的觀察

Dr. Kazuo Gotoh, u. Dr. Masatoshi Yamamoto: Statistische Beobachtungen
über die in den letzten 2 Jahren im Kyosei-Hospital zu Shimada
behandelten Oto-rhino-laryngologischen Krankheiten.

名古屋帝國大學醫學部耳鼻咽喉科學教室 (主任 阿久根睦教授)

醫學士 後 藤 和 男
ゴトウ トウ カズ オ

靜岡縣志太郡島田町共生病院耳鼻咽喉科部長

東京醫學士 山 本 正 敏
ヤマ モト マサ トシ

第 一 章

緒 言

泰西ニ於テハ耳鼻咽喉科ノ專門分科トシテ發達セルハ既ニ古キ事ナレドモ、我國ニ於テ耳鼻咽喉科ノ專門トシテ獨立セル分科ヲ成セルハ明治22年賀古(鶴所)氏ヲ以テ嚆矢トナシ、明治25年金杉(英五郎)氏之ニ次ギ、以來今日ニ至ル迄四十有餘年ヲ經過シ、其間漸次發達シ益々隆盛ニ赴ケルハ吾人ノ欣快トスル所ナリ。

而シテ該科專門醫ハ都會ニ集中シ、患者ハ都會ニ於テハ專門醫ノ診療ヲ受クル事ヲ得ルモ、小都會及ビ農、山村ニ於テハ殆ンド其診療ヲ受クル事ヲ得ザルカ、又假令可能ナリトハ云ヘ診療

ノ不充分ニ終ル場合ノ多々有ルヲ見ルハ實ニ遺憾ノ極ミナリ。

茲ニ於テカ最近全國各地方ニ組合病院ノ盛ニ開設セラル、ニ至リシモ、斯カル病院ノ設立ハ恐ラク前記ノ不完全ナル狀態ヲ幾分ナリトモ補足スルニ足ルモノナラント思考ス。而シテ斯カル一地方病院ヲ訪レン患者ノ統計ガ、直チニ該地方人ノ罹患狀態ヲ表示スルモノナリトハ斷言シ得ザルモ、尠クモ該病院ノ所在地ノ特色並ニ地方住民ノ罹患ノ大要ヲ察知シ得ベキモノト信ズルモノナリ。依ツテ余等ハ例數僅少ナルヲ以テ

統計的觀察ナル字句ハ其當ヲ得ザルノ誹無キニシモ非ザルモ。昭和12年及ビ13年ノ2ケ年間ニ島田町共生病院ノ耳鼻科外來ヲ訪レタル患者總數3227名。其疾患總數4591例ニ就キ。(1)耳科的疾患。(2)鼻科的疾患。(3)口腔咽喉科的疾患。(4)頸部及ビ其他ノ疾患ノ4種ニ大別シ。各疾患ヲ可及的詳細ニ分類シ。併セテ多少ノ卑見ヲ附加セントスルモノナリ。

患者ハ島田。金谷兩町及ビ附近農山村ノ住民ニシテ。當地方ノ風土氣候ニ就キ略述スルニ。概

シテ氣候温暖ニシテ。一ケ年ノ平均氣溫約18°Cニシテ。夏季ハ可成リ暑氣ヲ覺ヘ。又冬季ニハ氷點下數度ニ及ブ事モアリ。風強キ爲メ相當寒冷ヲ覺ユル事アルモ。當地ハ多年積雪ヲ見ル事殆ンド無ク。他地方ニ比較スレバ餘程凌ギ易シ。尤モ大井川上流及ビ山間部落ニ於テハ寒氣強ク。信州地方山間部ニ於ケルト同様「圍爐裏」ヲ作リテ暖房裝置ト爲セル地方存スルモ。島田町附近ノ一般家庭ニ於テハ火鉢ヲ使用スル位ナリ。

第二章

耳科的疾患

耳科的疾患總數1835。外來總疾患數4591ニ對シテ40%。此中男子1037(59.2%)。女子743(40.8%)。

第一節 分類

	例數(對總數%)	男	女
(1) 急性中耳炎	581 (31.65%)	333 (57.3%)	248 (42.7%)
(2) 耳 癰	344 (18.75%)	190 (55.2%)	152 (44.8%)
(3) 慢性中耳炎	218 (11.8 %)	146 (67. %)	72 (33 %)
(4) 耳 聾 栓 塞	199 (10.84%)	111 (55.8%)	88 (44.2%)
(5) 内 耳 疾 患	14	11	3
(6) 歐氏管狹窄	203 (14.32%)	167 (63.6%)	96 (36.4%)
(7) 外 耳 濕 疹	39	20	19
(8) 汎發性外聽道炎	39	23	16
(9) 乳 嘴 突 起 炎	25	15	10
(10) 滲出性中耳炎	43	29	14
(11) 耳 内 異 物	17	11	6
(12) 鼓 膜 裂 傷	8	2	6
(13) 耳 前 疣 贅	1	1	0
(14) 鼓 膜 炎	9	5	4
(15) 外 耳 神 經 痛	24	16	8
(16) 耳 翼 丹 毒	6	4	2
(17) 先天性耳瘻孔	2	1	1
(18) 耳畸形 {耳翼過小 {外聽道閉鎖	1	1	0
(19) 外聽道擦過傷	1	0	1
(20) 耳殼囊腫形成	1	1	0
總 計	1835	1037	743

一般ニ例数多キ急性中耳炎、耳漏及慢性中耳炎ニ就キテ罹患側、年齢別、性別、月別の關係ヲ表示スレバ次ノ如シ。

第 1 表

病 類	例数	年 齢・ 別					性 別	
		1— —10	11— —15	16— —25	26— 以上		男	女
急性中耳炎	計	581	329	66	74	112	333	248
	左 側	222	117	37	30	38	125	97
	右 側	234	116	25	32	61	135	99
耳 漏	計	125	96	4	12	13	78	52
	左 側	61	49	2	7	10	31	18
	右 側	64	47	2	5	3	47	34
慢性中耳炎	計	218	64	36	57	61	146	72
	左 側	79	25	13	23	18	59	20
	右 側	81	20	13	19	29	51	30
耳 聾	計	58	19	10	15	14	36	22
	左 側	28	10	5	8	5	15	13
	右 側	30	9	5	7	9	21	9

第 1 表 附 圖
月 別 の 關 係

〔各年度別々ニ表ヲ作りタルモ、繁雜トナルヲ以テ兩年度ノ總計ヲ記載シ、其々々ニ就テハ省略セリ。尙ホ以後ノ數字ハ總テ總計ヲ示スモノナリ。〕

(1) 急性中耳炎 581 (31.65%)。

之ニハ單純性、化膿性、穿孔性、急性増悪性ノモノヲ含ミ、主トシテ感冒ニ由來スルモノニシテ、急

性及慢性鼻咽腔疾患並ニ全身の急性熱性傳染病等ノ或ハ本疾患ノ原因トナリ、又本症ノ合併症トシテ同時ニ罹患セル者多シ。第1表ニ示セル如ク、兩側性ナル場合少ク21.6%ニシテ一側性ニ來タル事多ク、其左右殆ンド同數ニシテ各々前者ノ約1.8倍ニ相當ス。年齢的ニハ10歳以下ノ小兒ニ最も多ク、56.75%ノ過半数ヲ占メ、男子(57.3%)ニ多シ。

季節的ニハ冬季ニ最も多ク、尙ホ春秋ノ氣候變換期ニ多シ。

(2) 耳漏 344 (18.75%)。

之亦兩側性ノモノ少ク6.7%ニシテ、一側性ノモノ多ク、左側(52.3%)、右側(41%)、男子(55.2%)、女子(44.8%)ノ比率ヲ岩田(逸)氏、ピュルクネルノ兩統計ト比較スレバ大體次ノ如ク、ピュルクネルノ

報告者	兩側	左側	右側	男子	女子
余 等	6.7%	52.3%	41%	55.2%	44.8%
ピュルクネル	4%	56%	40%	55%	45%
岩田(逸)氏	6%	62%	32%	64%	36%

統計ニ酷似セル%ヲ示シ、岩田氏ノ統計トハ多少ノ差異ヲ認ム。年齢的ニハ矢張り15歳迄ノ小兒ニ多ク(68.3%)、月別的ニハ7、8、9ノ3ヶ月ニ多ク、殊ニ8月ニ異常ニ多ク、然モ年少者ノ水泳後ニ發病セルモノ其大部分ヲ占ム。夫レ以外ハ總テ搔傷後ニ起レルモノニシテ、左側ニ多キハ惟フニ左側ハ巧ミニ搔クヲ得ズシテ損傷易ク、又耳聾ノ掃除不充分ニシテ左外聽道ニ殘存シ、浸水ニヨリ軟化不潔トナリテ本症ノ原因トナリ、又一方掃除困難ナル爲メ度々掃除シ、爲メニ外聽道損傷ノ機會ノ右側ニ比シテ可成リ多キ點モ關係セルモノナラン。

(3) 慢性中耳炎 218 (11.8%)。

眞珠腫性、化膿性、陳舊性、再發性ノモノヲ含ミ、急性中耳炎ノ處理不充分ナル爲メ慢性ニ移行セルモノナルカ、又ハ適切ナル治療ヲ受ケツ、モ細菌ノ毒力及ビ各個人ノ體質ノ關係ニヨリテ慢性ニ移行セルモノモ可成リ多ク存ス。小兒ニ比シ成人ニ多ク、小兒ノ中ニテモ特ニ7—8歳以下(10歳以下)ニ多シ。之ヲ惟フニ就學兒童ハ缺勤スルヲ嫌ヒテ症狀ノ餘程高度トナルニ非ザレバ來院スル事無キニ反シ、就學前ノ小兒ハ何時タリ共來院可能ナル爲メニシテ、又成人ニ多キハ難聴、耳漏、耳鳴等ノ爲メ直接成業上

不便ヲ感じ來院スル爲メナラン。月別的ニハ特筆ス可キモノ無キモ多少學校休暇ニ多キヲ見ル。幼年者ニハ「アデノイド」及ビ慢性鼻科の疾患ノ合併セルモノ多シ。

(4) 耳聾 199 (10.84%)。

一般ニ左側ニ多シト謂フモ、本統計ニ於テハ總テ僅カニ左側ニ多キノミニシテ、15歳以下ノ小兒期ニハ寧ロ右側ニ多ク、16歳以上ノ成人ニハ左側ニ多ク、全體ノ45.2%ハ兩側性ニシテ小兒ニ割合多ク見ラル。男女ノ比ハ5:4ニシテ、16歳以上ノ男子ニ多シ。

(5) 内耳疾患 14。

老人性難聴、先天性聾、迷路性難聴、耳鳴、眩暈及ビ迷路嚢毒ヲ含ミ、殆ンド成人ニ見ラル。男子ニ多シ。

(6) 歐氏管狹窄 263 (14.32%)。

男子ハ167 (64.3%)、女子ハ96 (35.7%)ニシテ、其比ハ約1.73:1ナリ。全體ノ55.2%ハ兩側ニシテ、左側25.1%、右側19.5%、年齢的ニハ10歳迄ハ少ク、

統計者	對全耳疾患%	男:女	兩側	左側	右側
鰐淵(源)氏	15%	1.4:1	51.6%	26.6%	21.7%
余 等	14.32%	1.73:1	55.2%	25.1%	19.5%

11歳ヨリ30歳前後ニ最モ多ク、夫レ以上ハ漸次減少ヲ見ル。之ヲ鰐淵(源)氏ノ統計ト比較スレバ上記ノ表ノ如ク大體相酷似シ、年齢的關係モ殆ンド同様ナル結果ヲ示セリ。概シテ鼻咽喉科の疾患ニ由來セルモノ多ク、特ニ小兒ニ於テハ「アデノイド」及ビ扁桃腺肥大症ノ關係セルモノ多シ。

(7) 外耳濕疹 39。

中耳炎、耳癬等ノ膿汁ニ依ルモノハ之ヲ含マズ、主トシテ顔面、頭部ヨリ移行セルモノニシテ、殆ンド幼弱者ニ見ラル。

(8) 汎發性外聽道炎 39。

外聽道外傷及ビ搔爬ニヨル損傷ヨリ感染セルカ、耳漏、濕疹ニヨリ二次的ニ來タレルモノニシテ、男子ニ多シ。

(9) 乳嚢突起炎 25。及ビ滲出性中耳炎 43。

孰レモ一側性特ニ右側ニ多ク、兩側性ノモノ少ナク、16歳以上ノ男子ニ多シ。

(10) 耳内異物 17。

1例ハ兩側外聽道内ニ充滿セル粘稠ナル乳塊ニシテ、他ハ大豆2例、小豆3例、名稱不明ノ豆1例、昆蟲類6例、米粒1例、石炭1例、「マッテ」ノ軸木(尖端部ノミ)1例、草ノ穂1例ノ16例ニシテ、15歳以下ノ小兒ノ異物ハ左側ニ多ク、殆ンド皆豆類ナリキ。之ハ恐ラク豆類ヲ遊戲ニ使用セルモノナラン。

第 三 章 鼻 科 の 疾 患

鼻科の疾患總數 1303、外來總疾患數4591ニ對シテ28.39%。男子813(62.4%)、女子490(37.6%)。

第一節 分 類

	例數	(對總數%)	男(100分率)	女(100分率)
(1) 慢性肥厚性鼻炎	139	(10.65%)	[94(67.6 %) : 45(32.4 %)]	
(2) 慢性單純性鼻炎	102	(7.84%)	[54(52.9 %) : 48(47.1 %)]	
(3) 慢性副鼻腔炎	251	(19.28%)	[154(61.4 %) : 97(38.6 %)]	
(4) 急性單純性鼻炎	220	(16.89%)	[138(62.75%) : 82(37.25%)]	
(5) 鼻中隔畸形	333	(25.5 %)	[246(74. %) : 87(26 %)]	
(6) 衄血	47		[26 : 21]	
(7) 削瘦性鼻炎及ビオツェナ	98	(7.52%)	[42(42.8 %) : 56(57.2 %)]	
(8) 鼻中隔外傷及ビ穿孔	2		[2 : 0]	
(9) 鼻門濕疹	65		[33 : 32]	
(10) 鼻癬	21		[12 : 9]	
(11) 鼻茸 〔副鼻腔炎ニ伴ハザルモノ〕	5		[2 : 3]	

(12) 急性副鼻腔炎	7	[4 : 3]
(13) 鼻腔竇扶的里	8	[3 : 5]
(14) 鼻 部 外 傷	3	[3 : 0]
(15) 鼻中隔, 下甲介間癒着症	1	[0 : 1]
(16) 鼻腔内異物	1	[0 : 1]
計	1303	813 490

慢性肥厚性鼻炎, 慢性副鼻腔炎, 急性單純性鼻炎
及鼻中隔畸形ニ就キ表示スレバ次ノ如シ。

第 2 表

病 類	例数	年 齡 別				性 別	
		1—10	11—15	16—25	26—以上	男	女
慢性肥厚性鼻炎	139	9	24	77	29	94	45
慢性副鼻腔炎	計	251	11	37	130	73	154
	左 側	23	0	1	14	8	13
	右 側	14	1	2	7	4	8
	兩 側	214	10	34	109	61	133
急性單純性鼻炎	計	220	60	35	68	57	138
鼻及中其隔彎曲形側	計	333	0	23	157	153	246
	左側へ	194	0	13	97	84	133
	右側へ	69	0	5	32	30	54
	兩側へ	72	0	5	28	39	59
鼻中隔穿孔及外傷	計	2	0	0	0	2	2

第 2 表 附 圖

月 別 の 關 係

(1) 慢性肥厚性鼻炎 139 (10.65%)。

(2) 慢性單純性鼻炎 102 (7.84%)。

兩者孰レモ16歳以上ニ多ク, 男子ハ過半数ヲ占メ,

其兩者ヲ合スレバ241例ニシテ, 鼻疾總數ノ18.5%ニ當ル。中村(豊)氏ハ此兩者ヲ併セテ慢性「カタル」性鼻炎トナシ, 之ニ就キテ東西諸氏ノ統計ヲ列擧セリ。之等ト余等ノ統計トヲ比較スレバ下表ノ如ク, 諸氏ノ罹患率ヨリ少ク, 佐カニ Kayser ノ統計ヨリ稍々多シ。

統計者	鼻疾患總數	本症例	%
金杉氏 (3ケ年間)	1989	829	46%
Hasbermann			33%
Kayser			12%
山上氏 (1ケ年間)	480	270	57%
余 等 (2ケ年間)	1303	241	18.5%

(3) 慢性副鼻腔炎 251 (19.28%)

各副鼻腔ノ慢性炎症及ビ汎副鼻腔炎等ヲ總括セルモノナルモ, 主トシテ上顎竇炎ニ篩骨蜂窩ノ慢性炎症ヲ合併セルモノナリ。大部分兩側性ニシテ, 16歳以上特ニ青年期ニ多ク, 男女ノ比ハ約3.3:2.1ニシテ男子ニ多シ。學校休暇及ビ農閑期等ニ多ク, 年末, 農繁期等ニ少シ。

(4) 急性單純性鼻炎 220 (16.89%)。

大多數男子ニ見ラレ, 年齡的ニハ10歳以下ノ乳幼児ニ多ク, 又16歳以上ノ青年期ニ尙ホ一層多ク見ラル。

(5) 鼻中隔彎曲形 333 (25.55%)。

鼻中隔彎曲症, 槓, 棘ヲ含ミ, 鼻科的疾患トシテ外來ヲ訪ヒタル者ノ中, 自覺の症狀ノ輕重ヲ論ゼズ客觀的ニ見テ之ト認メタルモノヲ集録セルモノニシテ, 主トシテ彎曲症多ク 265 (79.6%), 槓ヲ伴フモノ及ビ槓ノミニモノヲ併セテ 116, 棘ヲ伴フモノ8ナリ。年齡的ニハ本症ノ發生經過ヲ考フレバ背カルル如ク15歳以下ニ少ク, 大部分 (93%) ハ16歳以上見ラル。

性別的ニハ Jurasz, 大杉, 窪田, 岩田ノ諸氏ノ統計

ニ見ラル、如ク。男子ニ多ク246例(71%)ヲ見ル。彎曲ノ側ニ就テハ Mackengi, Stier, 三島, 津田, 大杉, 菅野ノ諸氏ハ左側ニ多シト爲スニ反シ, 窪田(主一), 大澤, Zuckerkandl, Jurasz, Sediak, Simanowskiノ諸氏ハ左側ニ多シト爲ス等ノ諸説ヲ見ルモ, 余等ノ統計ニ於テハ左側(58.2%)ニ多キヲ見タリ。

(6) 鼻血 47。

大多數成人ニ見ラレ。動脈硬化症ニ關係アルト思シキ高齢者(60歳以上)ノ7例以外ハ。主トシテキーンゼルバハ氏域ヨリスル特發性出血ニシテ。男子ニ多シ。

(7) 剖瘦性鼻炎及位置正臭鼻症 98(7.52%)。

9例ノ真正臭鼻症以外ハ殆ンド單純性ニシテ。慢

性副鼻腔炎及ビ咽喉科の疾患ヲ合併セルモノ多シ。

本症ハ總テノ社會階級ニ見ラルレドモ。一般ニ下級ノ非衛生的生活狀態ニアルモノニ多ク。又好シテ妙齡ノ子女ヲ侵スモノトナサル。Voltolini, 坂井(龜定), Steiner u. Gerber, Michel, 馬場, 河野, 渡邊, 岩田ノ諸氏ノ統計ヲ見ルニ孰レモ女子ニ多キヲ見ル。

余等ノ統計ニ於テモ。男女ノ比ハ1:1.33ニシテ女子ニ多シ。

年齢のニモ一般ニ謂ハル、如ク。19歳以上即チ春機發動期ニ最も多ク(72.6%)。岩田氏ノ統計ノ71%ニ酷似セルヲ認ム。

第 四 章

口 腔 咽 喉 科 の 疾 患

口腔。咽喉科の疾患總數 1301。外來總疾患數 4591ニ對シテ 28.3%。男子743(57.2%)。女子558(42.8%)。

第一節 分 類

	例數 (對總數%)	男 (%)	女 (%)
(1) 急性咽喉炎	387 (29.8%)	229(59.2%)	158(40.8%)
(2) 急性腺窩性扁桃腺炎	181 (13.9%)	101(55.8%)	80(44.2%)
(3) 加答兒性扁桃腺炎	98 (7.54%)	59(60.2%)	39(39.8%)
(4) 扁桃腺肥大症	254 (19.54%)	143(56.3%)	111(43.7%)
(5) 慢性咽喉炎	46 (3.54%)	26(56.5%)	20(43.5%)
(6) 口 内 炎	152 (11.7%)	85(56%)	67(44%)
(7) 扁桃腺周圍炎及膿瘍	51 (3.92%)	25(49%)	26(51%)
(8) 咽頭實扶的里	27 (2.07%)	14(51.8%)	13(48.2%)
(9) 咽頭異物	10	8	2
(10) 聲帶麻痺	5	4	1
(11) 驚口瘡	6	2	4
(12) 舌腫瘍	1	0	1
(13) 濾胞性扁桃腺炎	4	3	1
(14) 猩紅熱性安魏那	3	0	3
(15) 壞疽性安魏那	6	4	2
(16) 食道異物	10	4	6
(17) 口腔内裂傷(刺傷ヲ含ム)	8	8	0
(18) 蝦蟇腫	3	1	2
(19) 齒根囊腫	1	0	1
(20) 喉頭結核症	11	6	5
(21) 咽頭微毒	3	2	1

(22)	ルードウィッヒ氏安魏那	9	[3 : 6]
(23)	咽 後 膿 瘍	1	[0 : 1]
(24)	上 顎 竇 腫 瘍	3	[3 : 0]
(25)	口 腔 内 血 腫	1	[0 : 1]
(26)	ヴンサン氏安魏那	2	[0 : 2]
(27)	口蓋破裂及ヒ穿孔	4	[2 : 2]
(28)	口 蓋 帆 麻 痺	5	[3 : 2]
(29)	唾 石	2	[1 : 1]
(30)	食 道 狹 窄	2	[0 : 2]
(31)	言 語 障 碍	1	[1 : 0]
(32)	喉 頭 癌	3	[3 : 0]
(33)	硬 口 蓋 膿 瘍	1	[1 : 0]
計		1301	743 558

一般ニ多數見ラル、急性咽喉炎、急性腺窩性扁桃腺炎、加答児性扁桃腺炎、扁桃腺肥大症、慢性咽喉炎ニ就キ表示スレバ次ノ如シ。

第 3 表

病 類	例数	年 齢 別				性 別	
		1—10	11—15	16—25	26—以上	男	女
慢性咽喉炎	46	2	0	9	35	26	20
急性腺窩性扁桃腺炎	181	45	25	49	62	101	80
加答児性扁桃腺炎	98	38	16	20	24	59	39
扁桃腺肥大症	合計	254	89	89	64	143	111
					(13)		(112)
口 蓋	159	47	48	55	9	90	69
咽 頭	18	5	12	1	0	13	5
口蓋咽頭兩方共	72	37	29	6	0	40	32
舌 根	6	0	0	2	4	0	6
(中1例ハ口蓋ト共ニアリ)	(5)			(3)		(5)	
急性咽喉炎	合計	387	97	18	101	171	158
咽頭炎	184	71	9	36	68	113	71
喉頭炎	82	9	2	24	47	45	37
咽炎	121	17	7	41	56	71	50

(1) 急性咽喉炎 387(29.8%)。

咽頭炎 184例(47.6%)、喉頭炎 82例(21.2%)及ヒ其兩者合併セルモノ 121例(31.2%) ナ包含セルモノニシテ、主トシテ風邪ニ由來セルモノナリ。15歳以

第 3 表 附 圖 A

急性疾患

下ニモ可成リ見ラル、モ、大多數(70.4%)ハ16歳以上(成人)ノモノニ見ラル。男女ノ比ハ約 6:4 ニシテ、男子ニ多シ。

(2) 急性腺窩性扁桃腺炎 181(13.9%)。

16歳以上ノモノ過半数(61.4%)ヲ占メ、他ハ15歳以下ノ小兒ニシテ、特ニ10歳迄ノ幼兒ニ 45例(24.8%)ノ多數ヲ見ル。性別的ニハ一般ニ謂ハル、如ク男子ニ多ク(55.8%)、男女ノ比ハ約 5:4 ナリ。本疾患ハ一般ニ扁桃腺肥大症ヲ有スルモノニ多ク見ラル。

第3表附圖B
慢性疾患

(3) 加答兒性扁桃腺炎 98 (7.54%)。

上記疾患ニ於ケルト同様ニ感冒ニ由來スルモノ多ク、全體ノ60.2%ハ男子ニ見ラレ、男女ノ比ハ約6:4ニシテ、10歳迄ノ小兒ニ可成リ多ク見ラレ、夫レ以上ニテハ大體平均セルヲ認ム。

季節的ニハ以上3疾患共ニ大體冬期ヨリ春秋ニ掛ケテ氣候變換期ニ多数見ラル。

(4) 扁桃腺肥大症 254 (19.54%)。

口蓋扁桃腺、咽頭扁桃腺ノ肥大症及ビ其合併セルモノ、併セテ舌根扁桃腺肥大症ヲ合算セルモノニシテ、口蓋扁桃腺肥大ノ標準トシテハマッケンジーノ所謂口蓋扁桃腺ガ前後口蓋弓平面ヨリ突出セルモノニシテ、14—15歳迄ニ見ラル、所謂機能的肥大ナルモノヲ考慮ニ入レ、且ツ所謂埋没性扁桃腺肥大症ヲモ併セテ、一般ニ斯クノ如ク外見上肥大セルモノニシテ、度々咽頭炎ニ罹患シ易キカ、又咽頭ニ於ケル異物感、鼾聲等臨牀上何等カノ症狀ヲ呈スルモノヲ以テ口蓋扁桃腺肥大症トナシ。

咽頭扁桃腺肥大ハ臨牀的検査ニ依ル他覺の所見及ビ鼾聲、口呼吸、閉塞性鼻聲、聽器障礙、思考力減退、注意散漫ニヨル學業成績ノ不良及ビ特異ナル顔貌等ノ諸症狀ヲ併モ考ヘテ決定セルモノニシテ、概シテ口蓋扁桃腺ノミ肥大セルモノ159例(62.6%)ノ大多数ニシテ、其大部分ハ25歳迄ノモノナリ。咽頭扁桃

腺肥大ノモノハ18例ニシテ、殆ンド總テ15歳以下ノモノニ見ル。其兩者合併セルモノ72例(28.35%)中、20歳前後ノ6例以外ハ總テ15歳以下ノモノナリ。男女ノ比ハ約5:4ニシテ稍々男子ニ多シ。舌根扁桃腺肥大症ハ6例ニシテ、16歳以上ノ女子ニ見ラル。本症ニ就テハ豊浦、梅田、深澤、若原、Turner等諸氏ノ諸説有レドモ、大體14—15歳位ニナルニ及ビテ初メテ舌根扁桃腺ト呼バル、程度ニ發育スルモノナレバ、本統計ノ16歳以上ニ見ラル、モ亦宜ナル哉。

四季ヲ通ジテ一般諸統計ニ見ル如ク春、夏、冬ノ學校休暇及ビ農閑期ニ多シ。以上254例中剔出手術ヲ施行セルモノ37例ナリ。

(5) 慢性咽喉炎 46 (3.54%)。

咽頭炎24、喉頭炎6ヲ含ミ、其中8例ハ乾性咽頭炎、蒼鉛中毒症トシテ招來セル1例以外ハ、總テ急性咽喉疾患ヨリ慢性ニ移行セルモノニシテ、2例ノ例外(3歳及ビ2歳)以外ハ總テ16歳以上ニ見ラレ、特ニ20歳以上ノ成人ニ大多數(76.2%)35例ヲ見、稍々男子ニ多シ。

(6) 扁桃腺周圍炎及ビ周圍膿瘍 51 (3.92%)。

扁桃腺周圍膿瘍27例(53%)、他ノ24例ガ周圍炎ナリ。

兩側性ノモノ少ク僅カニ5例、然モ兩側トハ云ヘ同時的ノモノ殆ンド無ク、左右一兩日乃至數日ノ間隔ヲ置キテ起セルモノナリ。他ハ總テ一側性ニシテ、特ニ左側ニ多ク27例(53%)ノ過半数ヲ占ム。年齢的ニハ一般ニ謂ハル、如ク20歳前後及ビ壯年期ニ最も多ク、小兒、老人ニ少シ。男女ノ差ハ殆ンド之ヲ認メズ。

(7) 咽喉「デフテリア」 27 (2.07%)。

殆ンド大部分ガ15歳以下、特ニ10歳以下ノ幼兒ニシテ、男女ノ差殆ンド無ク、喉頭氣管ニ波及セル10例中、3例ハ氣管切開ヲ必要トシ、1例ハ忌シキ氣管套管拔去困難症ヲ來タセシモ、余(後藤)考案ノ治療法ヲ以テ全治セシメ得タリ。

(8) 咽頭異物 10。

1例ノ「麥ノ穂」以外ハ皆「魚骨」ニシテ大部分口蓋扁桃腺ニ刺入セルモノナリ。此事ハ細谷、山本、小林諸氏ノ諸統計ニ大體酷似ス。

(9) 食道異物 10。

一錢銅貨4、墨鋸2、釘1、豌豆豆1、梅干ノ種

ニシテ、其中興味アルハ、(I)16歳ノ女子ノ鹽酸嚥下ニヨル治療後ノ瘢痕性食道狭窄ノ爲メニ小サキ「碗豆豆」ガ異物トナリ、(II)矢張り50歳ノ女子ノ食

道狭窄ノ爲メニ小サキ「梅干ノ種」ガ異物トナレルモノニシテ、他ハ總テ小兒ニ見ラル。

第 五 章

頸部及ビ其他ノ疾患

頸部及ビ其他ノ疾患 152。外來總疾患數 4591ニ對シテ 3.31%。男子 37(57.2%)、女子 65(42.8%)。

第一節 分 類

	例數	(對總數%)	男(%)	女(%)
(1)急性頸下淋巴腺炎	69	(45.3%)	42	27
(2)急性頸下淋巴腺炎	4		4	0
(3)耳周圍ノ急性淋巴腺炎	9		7	2
(4)急性耳下腺炎	36		21	15
(5)斜頸	1		1	0
(6)頸部單純性淋巴腺炎	16		6	10
(7)三叉神經痛	6		2	4
(8)顔面神經麻痺	2		0	2
(9)顔面蜂窩織炎	1		0	1
(10)輕度下顎關節炎	2		2	0
(11)側頭部痛(筋痛)	2		2	0
(12)甲狀腺腫	3		0	3
(13)頸部損傷的淋巴腺炎	1		0	1
計	152		87	65

(1)急性頸下淋巴腺炎 69(45.3%)。

49例ノ特發性ノモノ以外ハ總テ耳、鼻、咽腔及ビ口腔ニ於ケル急性炎症ノ合併症トシテ來タレルモノニシテ、男子ニ(60.9%)多ク、15歳以下ノ小兒(66.7%)ニ多シ。

(2)耳下腺炎 36(23.7%)。

男女ノ比約 4:3ニシテ、15歳以下ノ小兒ニ多ク、其中 52.8%ハ兩側性ニシテ、他ノ一側性ノモノニテハ左側ニ多シ。季節的ニハ初春ヨリ夏ニ掛ケテ多シ。

(3)甲狀腺腫 3。

大井川流域地方ニハ甲狀腺腫ノ患者相當ニ多シト聞クモ、當科ヲ訪ネシ者少ク、僅カニ 3 例ナリ。之ハ元來本疾患ハバセドウ氏病ニ非ザレバ差程苦痛無キヲ以テ放置シ、苦痛ヲ訴フルニ及ベバ恐ラク内科又ハ外科ヲ訪レル場合多キ爲メナラン。

第 六 章

總 括 及 ビ 結 論

患者數 3227 名、其疾患數 4591 例中、耳疾患 1835(40%)、鼻疾患 1303(28.39%)、口腔、咽喉疾患 1301(28.3%)、頸部其他疾患 152(3.31%)ニシテ、之ヲ諸統計ニ比較對照スレバ下圖ノ如ク

疾患	統計者	余 等	岩 田 氏	柴 垣 氏
耳 疾 患		1835(40%)	326(40%)	40.4%
鼻 疾 患		1303(28.39%)	207(25.3%)	26.8%
口一咽疾患		1301(28.3%)	259(31.76%)	19.9%
頸-他-疾患		152(3.31%)	24(2.94%)	4.7%

大體ニ於テ酷似セルヲ認ム。

性別的ニハ男子 2730(59.4%)、女子 1861(40.6%)ニシテ、男女ノ比ハ約 6:4ヲ示シ、其罹患率男子ニ多キヲ見ル。岩田氏ノ(大町病院ニ於ケル)統計ニ於テモ殆ンド同様に比率ヲ見ル。此事ハ男性ノ女性ニ比シ疾病ニ對スル抵抗力ノ薄弱ヲ意味スルモノニハ非ズシテ、一般ニ男性ハ體質ニ於テ女性ヲ遙カニ凌駕セルモ、其慣習、勞働等ノ關係上種々ナル原因の動機ニ接觸スル機會多キ事ト、且ツ不衛生(過度ノ飲酒、喫煙等)ナ

ル行爲ヲ爲ス事多キ爲メナラン。

セテ岩田氏及ビ大連聖愛醫院ニ於ケル柴垣氏ノ

次ニ病類別ニ例數多キモノヲ順次ニ列舉シ、併

統計ニ比較スレバ次ノ如シ。

病 類	統 計 者	余 等 (4591例中)	岩 田 氏 (816例中)	柴 垣 氏
(1) 急 性 中 耳 炎		581(12.63%)	90(11.0 %)	17.9%
(2) 急 性 咽 喉 炎		387(8.43%)	69(8.5 %)	9.9%
(3) 耳 癰		344(7.5 %)	69(8.5 %)	
(4) 鼻 中 隔 畸 形		333(7.25%)		
(5) 歐 氏 管 狹 窄		263(5.73%)		
(6) 扁 桃 腺 肥 大 症		254(5.53%)		
(7) 慢 性 副 鼻 腔 炎		251(5.47%)	38(4.7 %)	
(8) 急 性 單 純 性 鼻 炎		220(4.79%)	26(3.19%)	5.6%
(9) 慢 性 中 耳 炎		218(4.75%)	47(5.8 %)	
(10) 耳 聾 栓 塞		199(4.33%)		
(11) 急性腺窩性扁桃腺炎		181(3.94%)	28(3.44%)	
(12) 口 内 炎		152(3.31%)		
(13) 慢 性 肥 厚 性 鼻 炎		139(3.03%)	47(7.2 %)	
(14) { 特殊性炎症ヲ除ケル急性扁桃腺炎		336(7.32%)	82(10%)	10%
(14) { Dietrichノ分類ニ從ヒテ、特殊性炎症ヲモ合算スレバ		372(8.1 %)		

左記統計ヲ見ルニ急性中耳炎及ビ急性咽喉炎、急性鼻炎、急性扁桃腺炎等ノ急性上氣道疾患ノ罹患率大ナリ。

年齢的ニ15歳以下16歳以上ニ分ケテ觀察シ、上記兩氏ノ統計ト比較スレバ次ノ如ク、頸部疾患

ハ岩田氏ノ統計ト同様15歳以下ニ多ク、鼻科疾患及ビ口腔、咽喉科疾患ニ於テハ兩者共ニ10歳以上ニ多ク、特ニ鼻疾患ニ於テハ遙カニ成人ニ多シ。以上孰レモ相似タルモ、耳科疾患ニ於テハ岩田氏ノ夫レト相反スルモノアリ。然レ共總

	余 等		岩 田 氏	
	15 歳 以 下	16 歳 以 上	15 歳 以 下	16 歳 以 上
耳 科 疾 患	981(53.5%)	854(46.5%)	144(44%)	182(56%)
鼻 科 疾 患	357(27.4%)	946(72.6%)	36(17%)	171(83%)
口—咽 疾 患	582(44.7%)	719(55.3%)	115(44%)	144(56%)
頸—他 疾 患	99(65.1%)	53(34.9%)	14(58%)	10(42%)
總 計	2019(44%)	2572(56%)	309(38%)	507(62%)
柴 垣 氏	小兒42.1%	成人57.1%		

計ニ於テ、15歳以下(小兒)及ビ16歳以上(成人)
ノ罹患率ヲ比較スレバ岩田氏、柴垣氏ノ統計ト
共ニ三者略ニ同様ノ%ヲ示セルヲ見、概シテ成

人ニ多キヲ認ムルナリ。
次ニ月別的ニ之ヲ觀察スレバ、

病 類	月	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	計
耳科の疾患 總 數		205	166	152	153	139	117	147	267	156	131	98	104	1835
鼻科の疾患 總 數		101	85	77	100	108	116	115	156	134	123	102	86	1303
口一咽一疾 患 總 數		115	103	110	111	108	109	114	129	120	106	98	78	1301
頸一其ノ他 疾 患 總 數		7	13	14	9	11	15	14	20	15	12	14	9	152
總 計		428	367	353	373	366	357	390	572	425	372	312	277	4591

上表ノ如ク8月ニ最モ多ク、1月ニ次ギ、9月、7月、4月、10月ノ順ニシテ、夏季、冬季、春季ノ學校休暇ニ關係シ、尙ホ氣候變換期ニ罹患率大ナル事ヲ示ス。特ニ急性耳科の疾患及ビ急性上氣道疾患ニ於テ此關係ノ著シキモノヲ見ル。

以上ノ如ク余等ハ昭和12年1月1日ヨリ翌13年12月31日ニ至ル滿2ケ年間ニ島田町共生病院ニ於テ取扱ヒタル耳鼻咽喉科外來患者3227名、共疾患數4591例ニ就キテ各疾患ヲ可及的詳細ニ分類シ之ヲ統計的ニ觀察シ、併セテ岩田、柴垣兩氏ヲ初メ東西諸家ノ統計トノ比較ヲ試ミタルモノナルモ、本統計ニシテ耳鼻咽喉科の疾患ノ統計上幾分ノ資料トモナラバ幸甚ノ至リナリ。

摺筆スルニ臨ミ、恩師阿久根教授ノ御校閲ヲ深謝ス。
尙ホ本論文ノ要旨ハ昭和14年12月10日大日本耳鼻咽喉科會名古屋地方會例會席上ニ於テ演說セリ。

主 要 文 献

1) 岩田逸夫：大日耳鼻、第42卷、8號。 2) 鷗淵源：日耳鼻全書、第2卷ノ1、141頁。 3) 中村豐：日耳鼻全書、第4卷ノ4、552頁。 4) 向笠潜：日耳鼻全書、第6卷ノ4。 5) 窪田圭一：日耳鼻全

書、第4卷ノ2、248頁。 6) 河野亮太郎：日耳鼻全書、第4卷ノ1、108頁。 7) 柴垣留吉：耳鼻、第6卷、7號、651頁。 8) 菅野正雄：大日耳鼻、第29卷、1號。

(原稿到着ニ昭和15・3・25)